

# 宮城光吉さん

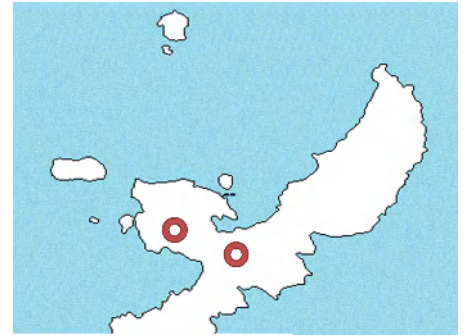
1929(昭和4)年4月25日生まれ

当時の本籍地 沖縄県

陸軍

所属 独立混成第44旅団第2歩兵隊

戦地 八重岳・多野岳(名護市)



## ●1942(昭和17)年4月 沖縄県立第三中学校に入学

1年の時は通常どおりの完全な授業があったような気がします。軍事教練が週に1回くらいあったので1年のころから三八式歩兵銃の照準を当てるくらいのことはあった。三八式歩兵銃は99式よりも大きい。明治38年に作られた割と優秀な銃。銃器庫があって50丁だったか使える銃もあった。

大正時代の法律で、学校には必ず配属将校が居た。配属将校は広島県の高等師範の物理科出身のタニグチさんで、中学校の物理教師になる予定だったが希望して将校になった。

## ●1944(昭和19)年4月 沖縄県立第三中学校の3年生に進級する

## ●1944(昭和19)年7月 独立混成第44旅団第2歩兵隊(宇土部隊)が校舎を接收

学校はびっしり兵隊がいて授業ができなくなった。授業なしで陣地構築だとか。

## ●1944(昭和19)年7月～1945(昭和20)年4月 中学校の校舎で無線の訓練を受ける

陸軍二等兵になった記憶はない。学校からそのまま教育ですぐ戦闘。3年生はABC班の編成で150人居た。そのうち50人が通信隊。無線通信班が15から20人位、有線通信班が17人、暗号班が11人くらい。

全て学校の命令だった。村役場に行き承諾書を貰って、父の承諾を貰って提出した。「15歳の子供がなぜ行かなければいけないのか」とオヤジが泣きながらハンコを押したのを忘れない。

無線以外の100名は、鉄血勤皇で機関銃とか歩兵。一部は多野岳にあった護郷隊に行った。宇土部隊にも一部。彼らは戦闘部隊で、銃は行き渡らなかったが手ぶらで訓練だけはしていた。

## ●1945(昭和20)年4月1日 米軍沖縄本島に上陸

### ●八重岳での戦闘

本格的な戦闘が行われた真部山(八重岳北側)の戦闘で、第二大隊の大隊長佐藤少佐が指揮していたのが戦闘部隊で、ここには榴弾砲、野戦砲など大砲もあるし、歩兵砲、重機関銃がある。米軍はそっちを集中的に攻めてきた。我々は無線だから一番安全なところで最後まで残って通信やった。朝9時から午後5時まで戦闘は8時間規模で、5時半にはピタッと砲撃をやめた。

### ●スパイと疑われ校長が断首された(取材者注 4月17日という説あり)

我々は中学生なので、将来偉くなる人たちだということで、兵隊さんたちは「学生さん、学生さん」と非常に優しい。「学生さん、これしてくれんかね」とか。15歳の少年だけれども、40歳くらいのおっさんたちの俺たちへの態度が違う。兵隊も中学出ていないのが多い。中学以上の人は軍曹とか下士官。

防衛隊というのはあまり学問していない人たちで、小学校を卒業して言葉も方言しか使わない。兵隊は方言しか使わない人を嫌がる。方言を使うと「何を言っているのかわからん」と叩いたりする。

「尋問した場合、方言でしか答えない者はスパイとして疑え」という文章が上から一般兵に来ていたらしい。それで、照屋忠英・本部国民学校校長は断首された。断首されたところは見えないけれど、踏んだり蹴ったりされているのは見た。なぜかと言うとその先生は難聴で聞こえなかった。「自分は国民学校の校長で怪しい者ではない」と言った筈なんだが、兵隊がたくさんいて、あっちからこっちから質問されて答えられない。戦闘中だから同じ兵隊が尋問せず次々引き継ぐ。それで怪しいということで、縄で縛って引きずり回しているところを私は見た。(スパイをするような)そういう人ではないのだから、殺されることになった。大きな悲惨な事件。

## ●1945(昭和20)年4月中旬(16～17日) 八重岳から多野岳へ撤退命令

### ●多野岳で解散命令を聞く

多野岳の頂上に着いた時にトウゴウ少尉の命令で整列してから、「君たちはもう解散するということでよろしい。食料がないから解散しろ」と言われた。

(取材日:2012年2月4日)